

俳句と私と短歌

中野亘子

俳句と私の出会いは、20歳のころ（遙か昔！）林多恵子さん（現姓・佐藤多恵子さん：多恵ちゃん）に誘われたのが始まり。断る理由もないし、むしろ興味もあったので指定された生保協会へ出かけた。

当時、多恵ちゃんは住友生命、私は日本生命に勤めていたので、そこは共通の馴染みある場所だった。

多恵ちゃんに案内されて着席し、あたりを見回すと参加者は15名ほどで、座長席には威厳に満ちた紳士がお座りになっておられた。俳名は「蕉風」と紹介された。

多恵ちゃんは、早くも頭角を現して「与謝野晶子の再来か」と言われていた。私は多恵ちゃんに恥をかかせてはいけないので猫を被ってお利口にしていた。

魚臭き 男も混じる 花見客 亘子

初参加の句会でこの句を投句したところ、蕉風先生にたいそう誉めていただき、気をよくして、その後かれこれ2年間通った。しかし、お年頃の事ゆえ、いわゆる「花嫁修業」（今では死語に近いが）が忙しくなって、ついつい句会への参加も疎かになっていった。

その後40年、60歳のころ多恵ちゃんから、「短歌の会」にお誘いがあった。指導者は、三国丘高等学校「国語担当」教諭であった山本初枝先生とのことだった。好奇心の趣くままに、私は、また多恵ちゃんのお誘いに従った。

「短歌の会」で久しぶりにお目にかかった先生は、足元がおぼつかなく、杖を持たれる手が震え痛ましかった。しかし、席につかれた先生の凛とした鋭い的確なご指導に大変驚いた。私は先生のご様子を目の当たりにして、生きがいの大切さと効用を学んだ。

才能豊かな多恵ちゃんは、すでに『歌集』を2冊上梓していて、新年皇居宮殿恒例の「歌会始」にも佳作入選されていた。そして山本初枝先生主宰の「短歌の会」の重鎮として一目置かれていた。

福崎の 社守ると 石獣は 阿吽のままに 苔むしてをり 亘子

当時、私は「三丘むすびの会」（同窓生結婚相談）のボランティア活動をしており、若き後輩たちの縁結びに忙しくなってきたことを理由に「短歌の会」の方もご無沙汰するようになった。

さらに17年、喜寿を迎えた時に、西村敏治先生から思いもよらず「金剛俳句会」へのお誘いを受けた。歯の治療中、いろいろお話しを伺ったが口を閉じることも出来ず「アー、アー・・・」と言っている間に、成り行きのままに参加することになった。

折よく、第1回「堺」吟行（2014年7月27日）が企画され初参加した。



堺市役所展望階⇒反正天皇陵⇒曹洞宗「紅谷庵」(牡丹花肖柏古今集「堺伝授」ゆかりの寺)⇒三丘同窓会館⇒活魚「いわし舟」

「金剛俳句会」は、在校時代に可愛らしいイメージを持っていた中野陽典さんが主宰しておられ、7年間にわたって楽しくリードしていただいた。今、私は新たに衣替えした「アカシア俳句会」に参加して、同窓同期の句友とともに末永く俳句を楽しみたいと思っている。